

アイデア紹介

白ボール紙を利用した板紙凸版版画

会津高田町立高田小学校 玉川 岩雄

1. はじめに

妹が亡くなったとき、雪の中に埋もれている一つの石仏の姿を見ました。

それは、疲れきった小さな子どもの寝顔でありました。

それから、わたしは「石仏とねぎぼうずの詩」の版画にとりつかれ、石仏とねぎぼうずを求めて歩きました。

そんなとき、子どもが道ばたで、木ぎれをもってすじを入れたり、深く彫ったりして遊んでいる姿を見つけました。

「そうだ。」

木のかわりにニードルを持ち、土のかわりに白ボール紙を使って版画にしてみようとはじめてのが、わたしの白ボール版画なのです。



2. 白ボール紙の特色

(1) 版作りが多様である。

版を作ることにについて考えてみると、白ボール紙は層にはがすことができるだけでなく、紙をひっかく、きずつける、しわを作る、穴をあける、切りとる、ちぎるなど……手や用具を自由に動かしながら、心の内部表現に適している。

(2) 大きな版を作ることができる。

樹脂加工紙は、特定の文房具店でしか市販していないが、白ボール紙は自由に安価で求められるので、量感のある版を作ることができる。

(3) 下絵が描きやすい。

下絵を描くときには、スケッチを原版に転写する方法もあるが、時間数を考え原版に直接描くようにしている。それでも、鉛筆で描きやすいため、構想をねりながらきめ細かな下絵を描くことができる。

3. 白ボール紙版の表わし方

(1) 対象をとらえて下絵を描く。

白ボール紙に、自分の表してみたい人物や動物の動きを、ひとつのかたまりで表わせるように下絵を描く。この際、版面に傷をつけないように、柔らかい鉛筆(2B)を使って軽く描くようにする。

下絵がはっきりしないものには、細書きマジックで描きこむようにする。

(2) 下絵ができたら、形の周りをはぎ取って凹部を作る。ニードル、カッター、切り出し、カミソリ等で、はぎとる部分の周りを切りこんでから紙層をはがすようにする。深くはがすと白がはっきりする。

この場合、形の周りの余分のところ(描画の場合、「バックをどの色ぬるんですか。」というところ)をはぎとると、灰色の中間調がフォルムを明確にし、主要な部分をはっきりさせることができる。

これらは、きりとり紙版、台紙つき紙版、木版などでも同じである。

それから、紙をはがすといっても簡単にはがれるものではなく、白ボール紙の材質を教え、向きを考えながら深くはがすようにしないと、美しい刷りとりができない。

(3) 主要な部分の深まりを追求する版作り。

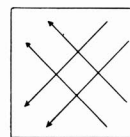
「版を作る喜び」を大きくするために、カッター、切り出し、はさみ、ニードル等の用具を豊富にし、はぐ、切り取る、切り抜く、線を入れる、点を集める等という表現をくふうさせ、楽しんで仕事ができるようにするとのよい版ができる。

- ・切り取る ————— 白い面
- ・はぐ ————— 中間色
- ・ひっかく ————— 白い線
- ・穴をあける、つつく — 白い面、点

4. 美しい版の刷り取り

(1) インク(油性)

(2) インクののぼし方



インクをインクの練り板に図のように出す。

ローラーはできるだけ軽く、小型のもの(巾15cm位)がよく、ローラーを空転させながら、前後、左右、それぞれ何回もころがし、ローラーにまんべんなく小さなつぶのインキがゆきわたるようにのぼす。

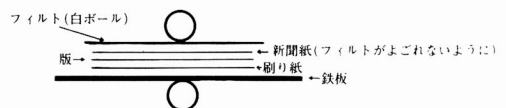
(3) インクのつけ方

ローラーを軽く握って、手前に引くようにしながら原版に何度どころがしながら、はいだ部分にインキが付きすぎないようにつける。

(4) 刷り取る紙

奉書紙、画用紙、ケント紙、白ボール紙等……版の感じによって紙を考えるとよい。わたしは、ケント紙、白ボール紙を使うことが多い。

(5) プレス機の使用法



布のフィルトを使うと版がつぶれ、美しく刷り取ることができないので、白ボール紙を使うとよい。